

政策番号	16	政策分野	高齢者福祉
------	----	------	-------

基本方針 いわゆる「団塊の世代」が高齢期を迎え、今後、介護給付費をはじめとした財政需要の増大が想定されるなか、高齢者自身が就労や社会参加を通じた生きがいきづくり、健康づくりを進めることにより、活力あるまちづくりを推進する。また、介護を必要とする高齢者が住み慣れた地域で生活できるよう、介護・医療施設等の整備に取り組むとともに、地域住民参加型の見守りネットワークを構築し、地域全体で高齢者を支えるしくみづくりを推進する。

担当局	保健福祉局	共管局	
-----	-------	-----	--

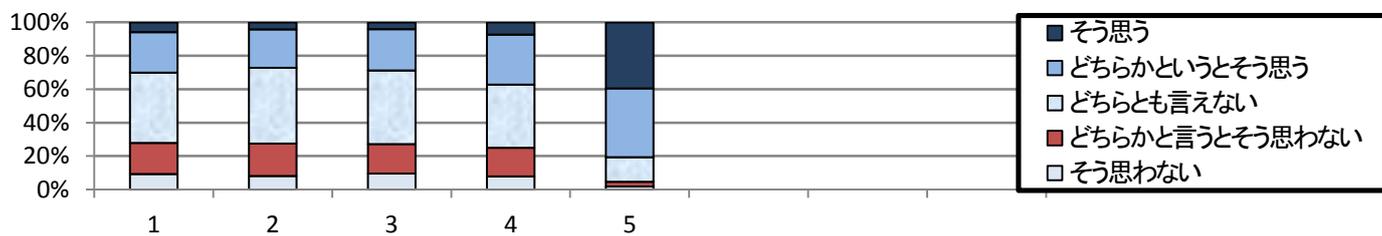
政策の評価

1 客観指標評価

指標名	23年度 評価値	32年度 目標値	23 年度	24 年度	25年度評価				
					前回は	最新値	目標値	達成度	評価
1 認知症あんしんサポーター登録者数(人)	28,920	-	a	a	36,487	43,102	40,991	105.1%	a
2 施設・居住系介護保険サービス定員数(人分)	11,981	-	a	a	12,801	13,512	660人分増	107.7%	a
3 地域包括支援センター相談件数(件)	239,203	-	b	b	235,352	242,541	247,120	98.1%	b
4 -	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5 -	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6 -	-	-	-	-	-	-	-	-	-
客観指標総合評価				a	a				a

2-1 市民生活実感評価

番号	設問	評価		
		23年度	24年度	25年度
1	高齢者が敬われ、心身ともに健康で充実した暮らしを送れている。	c	c	c
2	高齢者の知恵や経験、技能が社会に活かされている。	c	c	c
3	高齢者が地域で見守られ支えられて、安心してらせるまちになっている。	c	c	c
4	介護サービスや住環境整備などが充実し、高齢者が住み慣れた地域でそのひとらしく暮らしを送れている。	c	c	c
5	高齢社会が進展するなか、介護職が重要な仕事となっている。	a	a	a
6	-	-	-	-
7	-	-	-	-
8	-	-	-	-
市民生活実感調査総合評価		b	b	b



2-2 政策の重要度(27政策における市民の重要度)

23年度		24年度		25年度	
順位	%	順位	%	順位	%
1	37.8%	4	32.3%	15	81.6%

3 総合評価

B	政策の目的がかなり達成されている		
	<p>【客観指標】・認知症あんしんサポーター登録者数は、地域や職場等での認知症に関する正しい理解や対応方法の普及・啓発のための養成講座の開催等により、昨年度に引き続き、前年度から大幅に増加し、a評価となった。</p> <p>・介護保険サービス定員数は、国の補助制度等を活用し、特別養護老人ホームの整備等を進めた結果、堅調に増加し、昨年度に引き続きa評価となった。</p> <p>・地域包括支援センター相談件数は、センターの愛称やシンボルマークの公募をはじめとした周知に取り組んだところ、大幅に増加したものの、目標値には届かず、昨年度に引き続きb評価となった。</p>	24年度	B
	<p>【市民の実感】・市民の実感については、全体として昨年度と同様の評価であった。</p> <p>・高齢化の進展に伴い、介護職の重要性は強く認識されているものの、その他の全設問において「どちらとも言えない」が多数回答となっており、高齢者の技能等の活用や、地域で支える仕組みづくりを進める余地がうかがわれる。</p> <p>【総括】・客観指標が市民の実感を上回る結果となった。</p> <p>・高齢者を支える人材育成や基盤整備は一定進捗しているものの、市民の実感については、介護職の重要性以外は「どちらとも言えない」との回答が多数であり、実感の向上に向けて引き続き取り組む必要がある。</p> <p>・こうしたことを総合的に勘案し、この政策の目的は、かなり達成されていると評価する。</p>	23年度	B

今後の方向性の検討

<この政策を構成する施策とその総合評価>

施策番号	施策名	評価結果			参照ページ
		23	24	25	
1601	高齢者の尊厳を保つ社会の構築	B	B	B	173
1602	活力ある長寿社会の実現	C	B	B	175
1603	高齢者を支えるネットワークの推進	B	B	B	177
1604	介護サービスの充実による豊かな生活の実現	B	B	B	179
1605	魅力ある介護現場の実現	A	B	B	181

<今後の方向性>

・高齢者一人ひとりが、自らの意思に基づき、住み慣れた地域で、いきいきと健やかに暮らせる「健康長寿のまち京都」をみんなでつくることを目指し、世代間相互の理解の促進と認知症をはじめとする要援護高齢者への支援、生きがいづくりと介護予防、高齢者の地域生活を支える体制づくり、安心して暮らせる介護・福祉サービス等の充実を重点として取組を進める。

政策名	16	高齢者福祉
指標名	認知症あんしんサポーター登録者数（人）	
担当部室	長寿社会部	連絡先 251-1106
1 指標の説明 認知症に対する正しい知識と具体的な対応方法等を学んだサポーターの登録者数		
2 指標の意味 高齢者の尊厳が保たれる社会の構築に向けた進捗状況を示す指標		3 算出方法・出典等 算出方法：当該年度末時点の登録者数 出典：事業担当課調べ
4 数値		
10年後の(平成32年度)目標値	平成23年度評価値 28,920	平成32年度目標値 -
	根拠	
	前回数値 23年度 36,487	最新数値 24年度 43,102
	推移 6,615人増	単年度目標値 数値 40,991
		単年度目標値 根拠 平成26年度末までに5万人の目標達成のために当該年度達成すべき数値(累計)
		達成度 105.1%
	全国順位	中長期目標
	数値 50,000	目標年次 26年度
		達成度 86.2%
		根拠 第5期京都市民長寿すこやかプラン
		備考
5 評価基準 単年度目標に対する達成率が a：100%以上 b：90%以上100%未満 c：80%以上90%未満 d：70%以上80%未満 e：70%未満		6 基準説明 認知症に関する知識は、市民に周知されることが望ましいことから、目標値の100%以上をa、以下10%刻みで基準を設定した。
		7 評価結果
		23 24 25
		a a a

指標名	施設・居住系介護保険サービス定員数（人分）	
担当部室	長寿社会部	連絡先 213-5871
1 指標の説明 介護保険施設及び介護専用居住系サービスの定員数		
2 指標の意味 介護サービスの充実度を示す指標		3 算出方法・出典等 算出方法：当該年度末時点の介護保険施設等の実定員数から前年度末時点の実定員数を差し引いて算出 出典：事業担当課調べ
4 数値		
10年後の(平成32年度)目標値	平成23年度評価値 11,981	平成32年度目標値 -
	根拠	
	前回数値 23年度 12,801	最新数値 24年度 13,512
	推移 711人分増	単年度目標値 数値 660人分増
		単年度目標値 根拠 京都市民長寿すこやかプランに掲げる平成24年度目標値(13,773人)から平成23年度目標値(13,113人)を差し引いて算出
		達成度 107.7%
	全国順位	中長期目標
	数値	目標年次
		達成度
		根拠
		備考
5 評価基準 最新数値の前回数値からの増加分が、目標値に対して、 a：80%以上 b：60%以上～80%未満 c：40%以上～60%未満 d：20%以上～40%未満 e：20%未満		6 基準説明 当該指標については、民間事業者による整備促進を図るものであることから、80%以上をa、以下20%刻みで基準を設定した。
		7 評価結果
		23 24 25
		a a a

政策名	16	高齢者福祉
-----	----	-------

指標名	地域包括支援センター相談件数（件）
-----	-------------------

担当部室	長寿社会部	連絡先	251-1106
------	-------	-----	----------

1 指標の説明

地域包括支援センターへの年間相談延べ件数

2 指標の意味

地域全体で高齢者を支えるネットワークの構築状況を示す指標

3 算出方法・出典等

算出方法：全数調査
出典：事業担当課調べ

4 数値

10年後の（平成32年度） 目標値	平成23年度評価値 239,203	平成32年度目標値 -	根拠
----------------------	----------------------	----------------	----

	前回数値	最新数値	推移	単年度目標値		
	23年度	24年度		数値	根拠	達成度
数値	235,352	242,541	7,189件増	247,120	前年度実績の5%増の数値	98.1%

	全国順位	中長期目標			根拠
		数値	目標年次	達成度	
数値					

備考	
----	--

5 評価基準

単年度目標に対する達成率が
a：100%以上
b：90%以上100%未満
c：80%以上90%未満
d：70%以上80%未満
e：70%未満

6 基準説明

積極的な対象者の発見を重視し、目標値の100%以上をa、以下10%刻みで基準を設定した。

7 評価結果

23	24	25
b	b	b